

トコジラミ（ナンキンムシ）で困っていませんか？

近年、トコジラミ（ナンキンムシ）による吸血被害が増えており、アメリカなど海外では特に被害が大きく、社会問題にもなっています。また、夜間に被害に遭うため、精神的な苦痛を伴う場合もあります。暑い時期に特に活発となるトコジラミによる被害に遭わないためには、トコジラミのことをよく知り、日頃から注意しておくことが大切です。



① トコジラミはどんなムシ？

トコジラミはその名からよくシラミの仲間と勘違いされますが、実はカメムシの仲間です。そのため、カメムシと同様に悪臭を発生させることがあります。

もともとは、中東に生息していたとされ、16世紀の大航海時代にヨーロッパへと拡がり、日本には明治維新頃に外国船から持ち込まれたといわれています。日本では、第二次大戦後から1960年代にかけて、トコジラミの発生が多くみられていましたが、その後は発生事例が少なくなっていました。しかし、近年はやや増加傾向にあり、分布も世界の温帯地域を中心に広く生息しています。

トコジラミの成虫は体長が5～8mmで、茶褐色をしています。体は卵形で、背腹は扁平でペチャンコな形です。翅は小さな前翅ぜんしがあるだけで、後翅こうしは退化し消失しています。口器（口）は細長い形をしており、通常腹側に折りたたまれています。トコジラミは不完全変態で、幼虫、成虫とも同じ形をしています。（写真1）

② どんな生活をしているの？

トコジラミは柱や壁の割れ目、家具やベッドの隙間にいることが多く、天井など高いところにも生息しています。夜間に活動し、隠れていた場所から這い出してきた吸血し、満腹になると、再び隠れます。幼虫・成虫ともに血液だけを餌としており、幼虫では約5分、成虫では約10分吸血すると満腹状態に

なることが知られています。また、たくさん吸血したトコジラミはよく排泄をしますが、隠れている場所では行わずに、外に向けて行うため、墨汁をこぼしたようなシミを付けます。（写真2）

トコジラミの成虫雌は交尾後、約5日で産卵し、1日に5、6個ずつ、数ヶ月にわたり乳白色の卵を産み続けます。卵は約1週間で孵化して、1ヶ月半もすると成虫になります。このように次々に産卵し、成長するため集団で潜んでいることが多く、気づかないうちに大発生してしまうケースが多いようです。適温は25℃前後とされ、6月から9月頃に活動的になります。しかし、最近では住環境が良くなり（暖房や空調設備による）、活動期は広がっているとされています。

③ どのような被害をもたらすの？

病原体による病気の媒介はないとされていますが、吸血されることにより、激しいかゆみを生じます。特に夜間に活動することから、睡眠中に吸血され、激しいかゆみを伴うことで、睡眠不足になったりします。さらに、夏は露出部分も多いため、腕や太ももなどがトコジラミに吸血されやすい状況になり、被害を受けやすくなります。

④ 吸血された場合どうすればいいの？

かゆみの原因は、蚊にさされた時と同じで、吸血中に注入される唾液の中に含まれるヒスタミン

等です。症状の程度には個人差がありますが、激しいかゆみや発赤がある場合には、抗ヒスタミン薬が有効です。また、ごくまれなケースですが、多数のトコジラミに何度も吸血されることにより、全身にじんましん等が出る場合があります。このような場合には、速やかに病院で治療を受ける必要があります。

⑤ 予防策や駆除方法はないの？

・予防策

他の害虫にもいえることですが、まずは清潔な住環境にしておくことが大切です。特に、繁殖を防ぐ意味でも、春や秋に隔々まで大掃除をすることが大切です。また、すみかになりそうな所は日頃からよく点検しておく、発生に気づきやすくなります。

点検手順としては、

- ①寝室を中心に天井から床までよく見て、黒いシミなどがないかを調べる。
- ②布団を敷く付近の床や柱、絨毯の裏、ベッドマットの裏などの隙間を調べる。
- ③一日中薄暗い場所（引き出しの内・裏側、壁のカレンダー、ポスターや額縁の裏など）を調べる。
- ④トコジラミは外部から持ち込むケースが多く、特にこの時期は海外旅行なども多いので、旅行などから帰ってきた時には荷物をよく調べる。

・駆除方法

黒いシミやトコジラミを発見した場合には、家具類を少し移動させ、柱や壁の隙間、畳や絨毯の裏などを調べます。発見した場合には、殺虫剤を散布し駆除します。殺虫剤を使用しない場合には、隙間に針金などを入れ、掻き出し、吸引力の強い掃除機で

吸い取ります。

大量発生している場合には、燻蒸剤などの使用も有効ですが、潜んでいる場所に的確に薬剤が行き渡らず、完全に駆除できない場合も多いようです。また、集合住宅の場合には近隣を含めて駆除する必要があります。大量発生の場合は、専門の業者による駆除を検討する必要があります。



写真1 トコジラミ成虫



写真2 トコジラミの脱糞跡
(財団法人 大阪防疫協会より)